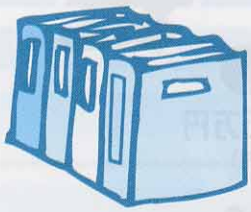
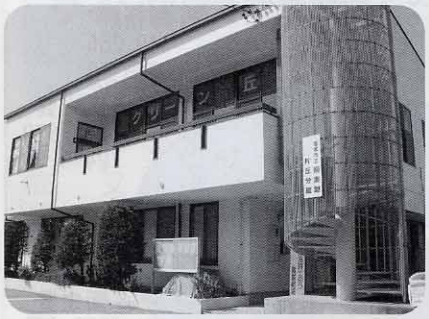


◆図書館分館の充実を

問 図書館片丘分館は2階で、らせんの外階段を利用しており、また面積も狭く使いにくい。書籍数と利用率はどうか。また、片丘は児童館が無いが、児童館との複合での新設の考えはどうか。（丸山）

答 片丘分館は図書館として設計してない部屋を転用しており、最も手狭な分館で書籍も最も少ない現状である。簡単に比較は出来ないが、地区別の一人当たり貸し出し冊数は2番目に高い数となっている。今年度、書架を増設し蔵書冊数を増やす予定。現在、新築または改築を伴う片丘分館の計画はないが、今後財政計画も含め検討する。

児童館の整備は塩尻市立保育園等整備計画に位置付ける中で、木造保育園の解消に関する年次計画が示せない状況である。



市立図書館片丘分館
（片丘支所2階）

放課後児童の活動拠点
片丘児童クラブ

財政は健全であるか

◆安心できない将来負担

問 代表監査委員は財政健全化法をどのように理解したのか。また、平成19年度決算を審査する中で、特に留意した点はあるのか。（小野）

答 市の将来負担比率は65・9%で、早期健全化基準の350%を下回った。考え方として、この比率は家計に例えて家のローンと考えればよく、収入比で3倍程度に収まればいい。ただ、起債の交付税措置などのメリットがないと仮定するとこの比率は334%まではね上がり、決して安心できるとは言い切れない。

◆平成19年度決算について

問 経常収支比率のアップと地方財政健全化法の4指標の数値実態は。（永井）

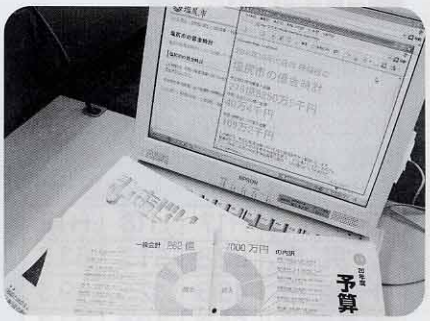
答 経常収支比率89・5%は下水道会計繰出金の経常的経費への算入替え、扶助費及び退職金の増加が要因、実質赤字比率と連結赤字比率は、黒字で計上なし、実質公債費比率9・8%と将来負担比率69・9%は、基準値を大きく下回り、特に問題はない。

◆よりわかりやすい財政公表を

問 市民への財政状況の公表については市のホームページ（HP）や広報で公開し、また図書館等に予算書・決算書を置いているが、わかりやすい公表のために工夫していることは何か。また、HPにも財政の説明を載せたり、図書館等に決算カードを置いてはどうか。また塩尻市の財政白書作成の考えは。（丸山）

答 広報では財政という専門的になりがちな内容を家計に見立てて説明したり、HP上に借金時計をつくり、財政への関心を持ってもらえるよう務めている。提案の件はできるものから取り組み、よりわかりやすい公表に務める。

わかりやすい財政公表を



市は財政情報を広報しおじりや
ホームページで公開している